



## PDA 教員研修大会 2025

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2025 年 12 月 13 日（土）09:00-09:30

会場：オンライン（Zoom）

参加者・ジャッジ：教員 28 名



本 PDA 教員研修大会は、参加者が肯定・否定・ジャッジの各役割をそれぞれ一度ずつ担当し、全国の教員と実際にディベートを行うことを通じて、指導力の向上および指導者育成につなげることを目的として実施されました。

開会にあたっては、一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）代表理事の中川智皓より挨拶がありました。中川は、「生成 AI の発展は目覚ましく、昨年までは『論理においては人間が優位である』と考えられていた分野においても、現在では AI が人間を上回ると評価できる側面が見られるようになっていきます。しかし、自分自身の意見をもって情報を精査し、選択する力を身につけることにディベートの意義があります。」と述べ、本研修の意義について言及しました。

続いて、PDA スタッフより PD 検定®や AI ディベートシステムのご紹介、そしてディベートのルールおよび注意点について説明が行われました。ルール確認の一環として、恒例となっている POI（Point of Information）の練習が実施され、参加者全員が片手を頭に乗せ、もう一方の手を伸ばす POI のポーズを取りながら、実践的に理解を深めました。



POI の練習の様子

開会式終了後、ディベートおよびジャッジの実践が行われました。参加者は各ラウンドごとに 4 テーブルに分かれ、肯定・否定・ジャッジの各役割を担当しながら、以下の論題について実践を行いました。

ラウンド 1：“In primary and secondary school years, students should be grouped by competency and intelligence instead of age. ”

（小中高校において、生徒は年齢ではなく学力で分けられるべきである。）

ラウンド 2：“Workplace love brings benefits rather than harm.”

(職場恋愛は害より利益をもたらす。)

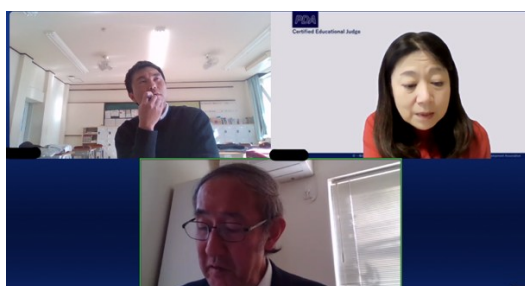
ラウンド 3：“Countries with aging populations should prioritize policies enhancing productivity over population increase.”

(高齢化社会は、人口増加よりも生産性向上に対する政策を優先すべきである。)

ラウンド 1 では、教育現場における公平性や学習効果を軸に、学力別編成の利点と課題について多角的な議論が展開されました。理論的整理だけでなく、実際の学校現場を想定した具体例も多く提示され、教育をテーマとする論題ならではの実践的な議論が行われました。続くラウンド 2 では、職場における人間関係や組織運営への影響をめぐり、多様な価値観が提示される議論となりました。抽象論にとどまらず、制度設計やリスク管理の観点からも議論が深められ、肯定・否定双方において説得力のあるディベートとなりました。最後のラウンド 3 では、高齢化社会に直面する政策選択をテーマに、生産性向上と人口政策の優先順位について活発な議論が行われました。経済・社会保障・労働政策など複数の視点が交錯し、政策比較や長期的影響を意識した高度な議論が展開されました。

いずれのラウンドにおいても、参加者は論点整理、反論、レスポンスを意識したディベートを行い、またジャッジ役としても論理構造や説得力を丁寧に評価していききました。またラウンド間の休憩時間や交流時間では、ディベートの評価の仕方や普段の授業に関する意見交換も行われ、ディベート指導および評価に関する理解を一層深める機会となりました。

〈ディベート実践・ジャッジ実践の様子〉



準備時間の様子



ディベートの様子



ディベートの様子



ディベート後の握手



ジャッジ実践の様子



ディベートの様子

### 参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・とても刺激になりました。
- ・Fellow participants were so encouraging! I need to improve in logic and timing though.
- ・いつもよりうまくディベートできなかったのですが、一年に一回色んな先生とこのように交流できるのは非常に有意義でした。
- ・PDA で、生徒さんの力が確実につくと思いました
- ・先生方のディベートと審判のレベルの高さに圧倒されました。よい勉強の機会になりました。
- ・とにかく、自校で生徒の指導を多くすること。その中で自分の力も向上していくと感じました。
- ・いろいろな先生と交流でき、勉強になりました。
- ・いつもは偉そうに生徒に指導していますが、自分がディベートをしてみても初めてディベートが難しいのか理解できました。また、ジャッジ・評価をされる側の気持ちもわかり今後の指導に活かしたいと思います。
- ・久しぶりにディベートに参加し、たくさん刺激をいただきました。
- ・かなり緊張しましたが、挑戦して良かったです。
- ・ディベート仲間がたくさんいることがわかり、嬉しかった！
- ・このイベントは、私自身にとって、日々の練習を欠かさず続けるための大きなモチベーションとなっており、心より感謝しております。
- ・非常にレベルが高く勉強になったと同時に、私のような初心者にもフレンドリーに丁寧に対応して頂き、安心して参加でき、多くを学ぶことができました。
- ・ディベートの練習は授業力向上にもつながっていると感じています。
- ・色々勉強になりましたし、全国大会の準備になりました。
- ・It was good to have a chance to actually practice debate!
- ・全てのロールを経験できるので、生徒の気持ちをわかる。

- 全国大会の前に審判の練習ができてよかったです。
- 先生方のディベーターとしてのレベルが大変高かったです。とても勉強になりました。ジャッジの練習だけでなく、自分がディベートすることで、生徒に寄り添ったジャッジができそうです。
- ディベーターとジャッジの両方をする事で、生徒の気持ちや自身の改善点がわかり、今後自己研鑽のモチベーションにつながりました。
- 非常に高いレベルの中ですべての役割を1回ずつ実践できた点が大変良かったです。
- 生徒の大会の前にやることで、流れや、ディベートの仕方、ジャッジコメントの在り方が分かりました。本番前にやったので、今回の経験が生徒の練習に生かされると思います。
- 生徒の気持ちが痛いほど理解できました。勝ってもモヤモヤ、負けてもモヤモヤ、こうならないように、自分がさらに自己研鑽しなくては、と思いました！
- 大変勉強になりました。特にディベーターとしてどのような心境なのかわかりました。